令和元年　飯田市教育委員会１１月定例会会議録

令和元年　１１月１４日（木）　午後３時 45 分開会

【出席委員】

教育長	代田　昭久
教育長職務代理者	北澤　正光
教育委員	伊藤　昇
教育委員	三浦　弥生
教育委員	上河内　陽子

【出席職員】

教育次長	今村　和男
地域人育成担当参事	青木　純
学校教育課長	桑原　隆
学校教育専門幹	高坂　徹
生涯学習・スポーツ課長	北澤　俊規
文化財担当課長	馬場　保之
市公民館副館長	秦野　高彦
文化会館長	棚田　昭彦
中央図書館長	瀧本　明子
美術博物館副館長	池戸　通徳
歴史研究所副所長	小椋　貴彦
学校教育課長補佐	滝沢　拓洋
教育支援指導主事統括	牧原　雅

日程第１　開　会

○教育長（代田昭久）　それでは改めまして皆さんこんにちは。ただいまより令和元年飯田市教育委員会１１月定例会を開会したいと思います。

日程第２　会期の決定

○教育長（代田昭久）　日程第２　会期の決定、会期は本日１日のみとさせていただきます。

日程第３　会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久）　日程第３　会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員は、上河内陽子教育委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

日程第４　会議録の承認

○教育長（代田昭久）　日程第４　会議録の承認、１０月定例会の会議録の承認ですが、お配りしたものでよろしいでしょうか。

（承認の意思確認）

○教育長（代田昭久）　よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

日程第５　教育長報告事項

○教育長（代田昭久）　日程第５　教育長報告事項。

それでは、Ａ４２枚で私のほうから教育長報告事項でありますのでよろしくお願いしたいと思います。

まずは、今の飯田東中学校のりんご並木の収穫を祝う会ではないんですが、飯田東中学校の文部科学大臣賞が、今週の月曜日に市長公室で行いました。実はそれだけではないというご報告をさせていただきたいなというふうに思います。

飯田東中学校の文部科学大臣賞ですが、リデュース・リユース・リサイクル推進功労者ということで、いろんな企業も対象になった全国的な表彰会であります。その中で、小学校１校、中学校１校、高校１校ということで、中学校の中では唯一このリサイクル活動の中で表彰されたことが評価されているかなあというふうに思います。

このリサイクル活動の中での評価の中にも含まれているんですが、りんご並木を中心とし

たまちづくりと合わせたリサイクル活動ということが評価の対象になっています。単に２５年間、まあ単に２５年間が長いんですが、２５年間リサイクル活動をしたというだけではなくて、まちづくりを地域や、またいろんな企業の皆様、行政と一緒にやっているというところが高く評価され、さらには被災地を支援したいという思いの中で「時代を超えた恩返し」という表現になっていますが、こういった大火から、また東中学校の火災を含めたところで、自分たちがそのときにいただいたご恩をリサイクル活動のお金で返していこうという活動が本当にまさにすばらしいと思いましたし、それが高く評価されたという理由であります。

もう１つは、これ文部科学大臣賞ですごいというふうに思っているのが、竜東中学校の花壇です。これも学校訪問のときに見ていただいたと思うんですが、「フラワー・ブラボー・コンクール」、毎年応募している中で、実は６年前の平成２５年にも文部科学大臣賞を受賞しているんですが、毎年賞を取っているので、少し麻痺している感もあるやに学校の関係者から聞いていますが、本当に種を植えるところから子どもたちが全工程で関わり、さらにそこの関わりに地域の支援があるというすばらしい活動が評価されたのだなあというふうに考えています。

続きまして、遠山中学校も博報賞ということで評価を受けています。こちらのほうは、表彰式に北澤職務代理が出席しておりますので、ぜひ補足していただければというふうに思いますが、４０年間、地域の中で伝統文化継承教育を行っているということが高く評価され、しかも、本当に前の旧上村中学校から学校を引き継ぎながら続いているということもすばらしい活動だなあというふうに思います。

こうした文化伝統が学校を関わりながら継続されているということも本当にまさにすばらしいと思いますし、そうした評価を受けたことは喜ばしいなというふうに思います。

さらに、これは内定ということではあるんですが、１２月にまた表彰式にお伺いしますが、座光寺小学校が文部科学大臣賞に内定をしました。これは、いわゆるコミュニティスクールを中心とした地域全体で次世代の子どもたちを育成するために地域と学校が連携・協働し、地域の教育力の向上を図り、社会総がかりで教育の実現を目指すことを目的とした地域に対する表彰ということで、「座光寺の子どもを語る会」ということで地域と一緒に目指す子ども像を描きながら、それぞれ子どもたちをはぐくんでいるということが評価されました。

これが率直なところ受賞すると、「座光寺だけではなくおれたちもやっているじゃないか」というところは続々と出そうなんですが、まずこれ大事なことは応募するということも１つの評価なので、そんなことも一歩前に出して評価していただいたというのも偉いかなあと、よかったなあというふうに思っています。

改めて、この４つの飯田市の小中学校が受賞した関係の共通項を見てみると、やはり何か短期的にやって成果を挙げたというものではなくて、長くはりんご並木の活動を７０年近くやっているものも含めて、一朝一夕ではない長い間の学校教育活動と地域との信頼関係、こういった蓄積の中で受賞されているんだなあというふうに思っています。

また、こういった形で子どもたちが豊かに教育活動が地域と連携している、キーワードはそういうところにあるなあというふうに思っております。

来週、校長会があるので、校長会でもお伝えしていきたいなあというふうに思っているんですが、ぜひこの受賞の意義を再確認しながら、これを地域の方々や、また先輩、ＯＢ・ＯＧ、また関わった人たちにしっかり伝えていくということも大事だし、また、これを機会に新たな伝統をつくる原動力にしてほしいなとそんなふうに思いますし、また、こういった活動に関してはしっかりと教育委員会も支えていきたい、そんなふうに思ったところであります。

２番目、裏面行ってください。

１０月の２７日に「風越登山マラソン」が行われました。今年は４００名近くのランナーが参加し、大きなけが人もなく無事終了できたことを関係者の皆さんに感謝したいなというふうに思います。

後ほど、報告事項の中でも登山マラソンがありますが、まずは本当に多くの協賛企業、丸山地区をはじめとした地域の方々に支えていただきながらできたことはよかったなあというふうに思っています。

スカイランナーの五郎谷選手、本当に速かったですね。みるみる追いついて、後ろから行ったのに本当に速く、トップへ帰ってきたというのはすばらしいなというふうに思っています。

その中で、私自身も参加していろいろ感じるところもあるわけですけれども、１０月１０日にずっと行ってきたものを、今年、昨年と２回、協議の末、やっぱり１０月１０日というのは非常に飯田の地域はお祭りや行事が多いので、１０月の下旬にしましょうということで、そっちのほうが参加が募れるんじゃないかと。特に「中体連の大会がピークを過ぎるころのほうがいいんじゃないか」というところで受けて、下旬に開催時期をつくらせたのでもあるんですが、こういうところがまだまだ参加者が増えていない状況なので課題として取り上げ、もっともっと満足度を高めるような工夫というのはできるんじゃないかなというふうには感じています。成功とともに課題としてしっかりと認識し、次年度につなげていきたいなとそんなふうに思います。

３番目としては、今週の日曜日になりますが、本当にすばらしい天気の中で「天龍峡大橋」が開通をしました。その中で、ここではぜひ共有したいのが、天龍峡のガイダンス施設「よって館天龍峡」がプレオープンをいたしました。

こちらのソフト面では教育委員会が尽力をかけてつくったわけですが、特に目玉としてはプロジェクションマッピングということで、山の、詳しくはご説明するより説明していただいたほうがいいんですが、本当に映像できれいに立体的に映る。しかも動くというものができていて、これは見ていて本当にわかりやすいし、すばらしい、ひきつけるようなものができたなあというふうに思っています。

「そらさんぽ」という遊歩道もできましたので、それをついでにこれを楽しんでいただきながら、ぜひ「よって館」に寄っていただきたいな、そんなふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

合わせて４つ目、部活動のほうの議論、総合教育会議でもしていただいたわけでありますけれども、いよいよ来年の１月、放課後部活動のオフ期間ということの実施に向けて進めています。

１枚配布させていただいたのは、この間、中学校の保護者会や先生方との懇談をしていく中で、やはり一番は「子どもたちにどう理解をさせていくのか」、「これは大きな課題なので、市教委としてもしっかりしてほしい」という声を沢山聞きました。

実際に私ども直接子どもの顔を見ているわけではないので難しいところではあるんですけれども、それでも教育長のメッセージということで、この文章をこれから配る物に掲示していきたいというふうに思っています。

これを書いた意図としては、単に部活動を短くしますよということではなくて、時間が部活動に費やされていたところを、自分の時間が増えて、主体的に自分の将来に向けて、また、自分の好きなことを取り組んでほしいというメッセージが伝わればなあというふうに思っています。

「部活動なくなったので遊べばいいや」とか「つまんないなあ」じゃなくて、だからこそ自分たちで自分の時間を考えるんだ。そんな子どもたちの主体性をはぐくむ契機になっていけばいいかなあ、そんなふうに思っています。

また、この間、飯田市体育協会を中心に、地域のスポーツに携わっている方々の大変なご協力を得てスクールが開けるように至りました。サッカーに至ってはほぼ３週間、月火水木金、５日間を３週間ということでやっていただけるスクールも充実してきました。

一方では、学校教育がなかなか難しくなってきたところを地域で支える、地域の文化活動

への普及・発展にもつながる、そんな側面もある取り組みだというふうに思っています。

いずれにしろ子どもたちにとって充実した中学校生活になるように、これからも取り組みは進めていきたいと思いますので、引き続きご意見、また、いろんなところで声を聞きましたらここに届けていただいて共有できればと思います。

私のほうからは以上４点です。何かご意見あればお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

日程第６　議案審議（１件）

○教育長（代田昭久）　それでは続きまして議案審議に移りたいと思います。

今月の議案審議は１件です。

議案第５３号　令和元年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」

○教育長（代田昭久）　議案第５３号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」、お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原　隆）　それでは、議案第５３号「令和元年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いいたします。

認定対象者につきましては、別冊でご用意をさせていただきましたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にてご認定をいただきますようご提案を申し上げます。

よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

ただいま就学支援対象者の認定についての説明がありましたが、認定でよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久）　はい、それでは、認定の承認ということでよろしくお願いします。

日程第７　協議事項

○教育長（代田昭久）　続きまして、協議事項に移ります。

長期欠席児童・生徒の状況について

○教育長（代田昭久）　今月の協議事項「長期欠席児童・生徒の状況について」、皆さんとご議論したいと思います。

はい、牧原教育支援指導主事統括、お願いします。

◎教育支援指導主事統括（牧原　雅）　はい、お願いをいたします。

それでは、別資料になりますが、「平成３０年度不登校の状況について」という、県教育委員会心の支援課から出されております資料をご覧いただきたいと思います。「平成３０年度不登校の状況について」「心の支援課」というふうに書かれてあります。よろしいでしょうか、ご覧ください。

それでは１ページ目お願いをいたします。「平成３０年度の不登校の状況について」、県教育委員会のほうでまとめられましたものが出されました。また、今後の方針についても出されておりますので、そんな点について、飯田市教育委員会が大切にしている内容でございますので、ご意見をいただければありがたいなあというふうに思います。

まず、１つ目の「不登校児童生徒及び在籍比の推移」ということであります、これは長野県であります。不登校児童生徒数は、人数及び在籍比ともに増加傾向にある。ただ、この増加傾向が問題であります。

小学校は１，０３２人で、前年度から３２６人、４６％の増加。在籍比は０．９５％で、前年度から０．３１ポイント増加をしているということであります。中学校のほうは、２，１９７人で、前年度から３１６人の増加。在籍比は３．８４％で、前年度から０．６５ポイント増加をしたということで、長野県全体で見ますと特に小学校あれですが、小中ともに大変大きな増加傾向になってきているという状況でございます。

それを国のほうとも比較いたしますと、棒グラフの下の表をご覧ください。その下の表の中に「３０」という太い枠で囲ってある、これが平成３０年度ですが、小学校の場合は、県の在籍比が先ほど申しましたように０．９５であります、全国が０．７０ということで、長野県の在籍比が非常に高いことがわかります。

その下が中学校になります。中学校は、県のほうは３．８４ですが、全国は３．６５％ということで、これも全国に比べると在籍比が大変高いというような状況に今現在なっているところであります。

それでは、１枚めくっていただいたその次になりますが、飯田市の子どもたちはどういう状況であるかというご報告をさせていただきます。資料「市郡別不登校児童生徒数在籍比の推移」という表がございます。この表の１０番、番号の１０が飯田市になります。

そして、飯田市の不登校、３０年度をご覧ください。ここを見ますと、在籍比が０．７６、０．７６％でございます、小学校が０．７６。そして、その右のほうへ移動していただきますと中学校になりますが、中学校が３０年度が２．９７％という状況でございます。

それを先ほどのものと比較をいたしますと、小学校のほうが全国平均よりも少々多いんですが、県の平均よりはだいぶ低い状況であると。中学校のほうが全国、県の平均よりも両方とも低いという状況でございます。

飯田市では、各学校の現場の先生方の取り組み、あるいは先ほどもうちょっとご紹介させていただきました、飯田市では多くの教育支援指導主事の配置によって、そういった教育支援指導主事の取り組みによりまして、全国、あるいは全県では大変大きな増加傾向になっている中を何とか頭打ちに抑えられているという状況でございます。

しかし、不登校というふうに言われている子どもたちの中には、社会的な自立に向けて学びの場が得られていない子どもさんたちが飯田市にも大変大勢おります。さらに支援を充実させてまいりたいと考えております。

それでは、次のページをめくっていただきまして、長野県教育委員会での「課題と取組の方向」というところをご覧ください。

５番の「課題と取組の方向」の「総合教育会議」の中で「問題意識」というところをご覧ください。「これまでの不登校対策は何か根本的に違っていたのではないか」「学校以外の多様な学びの場への支援が不十分なのではないか」と。そして、この今後の方向として「現状等と問題意識をもとに議論し、以下の方向性で取り組むことを共有」ということで、「科学的知見を活用した取り組みを含め、学校そのものを変えていくことが必要である」。２つ目に「子どもたちの社会的自立を目指し、学校以外の多様な学びの場と連携した取り組みが必要である」。このような課題、そして、取り組みの方向性が示されているところでございます。

こんな点につきましても、飯田市の子どもたちの状況も踏まえてご議論をいただければありがたいというふうに思いますし、次のページには、中間報告でございますけれども、今年度半年の状況についてとりまとめをさせていただいたものを資料としてつけさせていただいておりますので、また参考にご覧いただければというふうに思います。

以上、よろしくお願いをいたします。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

ただいま協議会の支援指導主事の先生方の支援も含めて、今、不登校の状況についての説明をいただきました。

皆さんのご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤　昇）　今の説明の最後の部分のところですが、総合教育会議の中で行われて、かなり大胆な方向性のところで「学校そのものを変える」という文言があるんですが、これからのことだとは思うんですが、今の段階でどんなことが挙げられているのか、わかる範囲でいいんですけれど。

○教育長（代田昭久）　はい、牧原教育支援指導主事統括お願いします。

◎教育支援指導主事統括（牧原　雅）　今のご質問の関係でございますが、問題意識の中に、「これまでの不登校対策は何か根本的に違っていたのではないか」というものがございます。この「根本的に違っていたのではないか」というこの意味をどうとらえるかということなんですが、ここには私ども、特に学校現場の先生方は「不登校になった子どもさんたちを何としても教室へ戻してやりたい」、こういう声が非常に強く、今までは「学校へ、そして教室へ戻すことが不登校の一番の解消のための道になるし、そうならなければ不登校が解消したことにならない」というそういう考え方が強かったというふうに思うんです。

それが、今「これは根本的に違っていたのではないか」というのは、その教室へ戻すということを目的にしないで、もっと子どもたち一人ひとりの実情、実態にあったところで学ぶような場をつくってあげたりして、少しでも子どもたちが、今までは「学校へ戻すという対策だったものを社会的な自立を助けてあげる」というそういう考え方に変えていくというのが、この根本的に違っていたのではないかということや、学校そのものを変えていくというのは、まずはやっぱりその考え方を変えていかなくちゃいけないというこういう意味であろうかなというふうにとらえております。

以上です。

◇教育委員（伊藤　昇）　今の説明、非常に共鳴というか共感するところあると思うんですが、やっぱり不登校ですから、学校へ来れば登校するんですが、そこが今までだったら教室へ入る、教室以外のところでも来ていれば不登校じゃないということ、その話が一点。

それから、もう１つは、学校へ来るようになることがいいんですけれども、その児童なり生徒が最終的に社会に出たときにどういう社会人になれるかといったところが、そこがやっぱり目的なので。

例えば、学校におられなくても、その生徒児童がある程度の教育なり、学業ばかりじゃなくて生活すべてを含めて、その社会人になれるようなものを身につけられればいいというわけで、やっぱり考え方というのを広く、学校へ来ればすべてだというんじゃなくて、そうい

う考え方、あくまでもどういう社会人になるかというところを目標に置いているという、そういう考え方から見れば、今の話は非常に共感をもてるという、私にはそういうふうに思っていますが。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　この平成３０年度の心の支援課の資料を見ると、ちょうど１０年前、平成１９年・２０年のときと全く同じ、１０年で同じサイクルがまた回ってきたという思いをとても強く感じました。

歴史的に見ると、平成１９・２０年ころに不登校のお子さんの数が長野県の場合とっても増えて、小学校では全国１位に近いような人数とか、中学でもワースト５とかということになって、ちょうどその時期、私も県の教学指導課にいて、そのころは心の支援課という課はなくて、教学指導課の中に心の支援室というのを置いていた時期なんですけれど、この状況を放置しておくことはできないということで、県を挙げて不登校検討委員会というのを立ち上げて、いろんな分野の皆さんにも入っていただいて、どんなことができるかというふうにやってきた中で、そのころ盛んにつくられたのは、各自治体でつくる中間教室です。

その中間教室もなるべく学校の中につくるのではなくて、学校から離れた場所、公民館とかそんなようなところにつくるということとか、それから、民間、ＮＰＯなどと連携してやっていくところには３年間期限つきですけれど、補助金を出しましょうというようなことをやって、何とか子どもたちの居場所づくりを進めるというようなふうにやってきた。その経過の中でうんと注目されたのは、いわゆる発達障害と呼ばれている、今ではもう発達障害とか発達特性ということには当たり前のように理解が進んでいるんですけれど、そのころは発達障害ということ自体がまだ学校現場でもほとんど理解されないという時期でした。

そういう中で、学校では盛んに研修等の機会を設けて発達特性のあるお子さんの支援の仕方とか、発達の特性を理解するというようなことをやってきた結果が、長野県の場合、だんだん長期欠席の不登校のお子さんが人数的にも減ってきた。学校内にも、学校の外にも居場所ができてということで徐々に減少してきたんですけれど、またここ３年くらいのところで微増してきて、ついにこの３０年度のところでは、また２０年度のころの再来みたいな感じになったという、そんな経過になっている。

それで、県のほうもこれは何とかしなければというので、総合会議のところでかなり刺激的な言葉、「学校そのものを変える」というような刺激的な言葉でやってきているんですけ

れど、これはこれで学校や教室のあり方とか、支援・指導のあり方を改めて子どもを中心に見直していくんだという思いの発信でこういうふうになってきているのは理解できるんですけれど、でも最後に行きつくところは何かといったら、学校に登校するか、しないかは別で、国も「学校に登校していなくても、校長が登校に準ずる学びをしていると受けとめれば今は登校扱いしてよい」というふうにまで柔軟になっていますよね。そういう状況の中で、これからこの飯田市でも何を考えていくかということになるのかと思います。

今、教育支援指導主事の皆さんが本当に一生懸命関わってくださっている結果がこれぐらいで済んでいるという経過だと思うんですけれど、この令和元年度の上半期を見ていくと、中学校では上半期段階で去年と比べるとプラス１２人というような数字も出ているわけですし、偶然３０年度の場合は、全国・県と比べて比較的低い数値で収まったというところは、うれしいことであるのと同時に、安心はしていられないとも思います。何が策があるということではありませんが、これからも一生懸命みんなで考えていかないといけないと思っています。

１点、平成１９年ごろからずつと不思議なことがあって、心の支援課から出ている１ページ目のところに還っていただきますと、小学校、中学校は全国平均等と比べても高く出ているのですけど、一番下の欄、高校のところを見ていただくと、長野県の場合、小学校、中学校で長期欠席のお子さんとか不登校のお子さんが全国の上位逆にあるのですが、中学３年生の後半あたりからかなりのお子さんが改善していきまして、高校へ進学した段階では、ここにあるように全国で比べるとかなり低い、多分全国３０位の後半辺のところに位置づく数値になるんです。

それが長野県の高校の持っている自由な気風というんですか、他県へ行くと高校生がけっこう折り目正しいというか、服装はもちろん、登校時間に遅れると正門を閉めてしまうというように厳しい。長野県でそこまでしている高校はまずないと思うんですけれど。

大学に近いくらい長野県の高校にはかなりの自由さがある。その自由さが、高校へ行ってからの不登校の数を激減させているのではないかというような受けとめもできる。この義務教育段階で高い数値だった子どもたちが、高校へ行ってどうして低くなっているか、ここに改善へ向ける何かのポイントがあるのではないかと思います。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

それに関連してでも結構ですが、ご意見あれば。

上河内教育委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子）　大変難しい問題ですし、大変危機的な状況であると思いますし、日本

のというか本当に教育の問題として大きな問題であり、本当に一朝一夕に解決できるようなことではないということが言われているかと思います。

私が子どもを通わせる中でやっぱり実感することは、自分の子どももその含めてなんですけれども、ちょっとやっぱりナイーブな子とか繊細な子が学校に行けなくなるという現状を目の当たりにすると「どうしてなんだろう」というふうに理由を見つけようとしちゃうんですが、やっぱりそれは１つではないとは思うんですけれども、やはりすごく管理的な教育の中でそれについていけない子どもたちが出てしまうということもあると思いますし、あとは子どもたちの居場所として迎え入れるという雰囲気というのがすごく大切で、やはり飯田市がやっているような中間教室ですとかという多様の学びを選べる、「それでいいんだよ」というような方法、選べる方法があることはすごく大切。

やっぱり行けなくなっちゃったときに学校へ行くしか自分の居場所がないというのが子どもにとってとても苦しいことで、そうではなくて、「ああ、こっちに行っても大丈夫だよ」「学びができるよ」というものがあるというのは救いだと思います。

教室に入るとどうしても「みんなと同じようにやりましょう」という空気の中で入りづらくなってしまう子というのはいると思いますが、逆に中間教室とかに行くと「ありのままでいいよ」というふうに言ってくれるわけですよね。その中で子どもは安心して、だんだんに慣れていけるということもあったかなというふうに思っています。

社会がこれだけ激変していて、ネットとかで世界が変わっているような状況の中で、やっぱり「その学校そのものを変えていくことが必要である」という議論が起こるのは当然であると思うし、「教育の先進国と言われるような国を見習ってみるとちょっと日本は遅れている」という議論が大変高まっていると思うので、飯田市の教育委員会としては、やっぱり地域とか目の前の子どもを見ながら、一人ひとりの状況に応じてというその姿勢というものを、県だとちょっとそこがまた大きくなって、国だとさらに大きくなってしまうので、この地方の１市である私たち、特に教育委員会というのが一人ひとりの子どもに対面するというその気持ちを持って取り組んでいくほかはないのかなというふうに思います。

あと、ちょっと話は変わりますが、先月、全国の学力テストの結果について、協議会のほうで報告をいただいたことがあったと思いますが、その中で、やっぱりそのテストと結果の点数が学校同士の競争になったり、地域同士の競争になったり、県同士の競争になったりというような状況になるのは本末転倒であるのかなあというふうに思います。

そうすると、その子どもたちに勉強ができるようにならなければならないということで、先生たちが躍起になって学力を上げるために一生懸命にならなくてはいけないという現状

になってしまったりすると、そのできない子が排除されたりということが出てきてしまうと、また息苦しいと思うので、やはりそうではなくて、学力の共通テストというのは、点数は結局はそれは指標であるということを肝に銘じて、やっぱり一人ひとりの子の状況に合わせて、その子がどれだけ目標を達成していくかということを見ていただくということ、見ていくということが大切なのかなというふうに思います。

とりとめがなく申し訳ありませんが、以上です。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

三浦教育委員。

◇教育委員（三浦弥生）　はい。先ほど伊藤教育委員のほうからの質問のご回答をいただいたところではありますけれども、総合教育会議の問題意識のところで「根本的な考え方が違っていたのではないか」というようなことも先ほど回答いただいております。

教育の目的というものが学校に来るということではなくて、子どもたちが社会的な自立する力をつけていくと、そういうところを目的にというところで考え方がそういうふうに違ってきて「変える」ということなのかなというような形で理解をさせてもらっています。学校に来る、教室に来るということが目的ではない、子どもたちが力をつけると、そういうことなんだというふうに転換されていくのかなとそのように感じました。

そうやって思いますと、協議会のときでの折のご説明いただきました「効果のある取組の事例集」ということでご説明いただいた内容を一通りお聞きしていますと、やはり個に対する対応といいますか、児童生徒それぞれの子ども一人ひとりを見た対応をされていて、そこに効果があるというような内容をちょっといろいろなところでお聞きしたような気がします。

例えば、夏にしました「夏の体験活動」という集団を取り扱うものであっても、その中にある子どもたち個を見て、きちんと丁寧にそれも伸びたところを温かくほめたりするところで対応が温かい。子どもたち個を見て対応して、その子ども一人ひとりに自信をつけるというような取り組み、きめ細かくしているといったところが見てとれまして、さっき上河内教育委員のほうからの話もありました、目の前の子どもに応じたそういった丁寧なそういった対応、本当にこの国だから、県だからではなくて、市というこういった中でできる、やはりそういう対応が大切なんだなと。そうすることで社会力のついた子どもの教育というものが成り立っていくのかなと、そんなところを感じました。

感想で申し訳ありません。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

この資料の中の表の後ろの今、「学校そのものを変える」「学校の学び場を変える」、下のところの具体的プロセスの中の県の「第１回策定委員会」というのがあるんですが、実はこの策定委員会のメンバーに私が今、指名をされて、教育長として長野市の教育長と飯田市の教育長ということで有識者として入っていますので、こんなところで関わって、また健全に、よくなればいいかなあというふうには思っているんですが、先ほどのこの議論もしたので、多少牧原教育支援指導主事統括の話を補足させていただくというか、そのとおりなんです。

要は、長野県がもともと不登校が高かったのは、学校が神聖な教育県としてあって、学校に行かなきゃだめだという、その動機、圧力みたいなのが強かった県ではなかったかと。そういったところの反省に踏まえたときに、子どもたちの自立であれば、学校・教室に戻ることだけがすべてではなくて、子どもたちにまさにダイバーシティーの多様な教育の場があってもいいんじゃないかという意見ですね。

なので、この「学校そのものを変える」と「学校以外の学び場をつくる」というのは表裏一体の関係であって、学校そのものが要は違う学びでもいいんだよねという意識改革をしていかないとうまくいかないし、逆にそういう場もしっかりつくっていくことで学校に戻ったりとかいうことをできるという意味でのその根本的ということの議論になったので、私も今そういうふうに解釈をして進めていけばいいんじゃないかなあというふうに思っています。

私がひとつ反省というか、認識を改めなきゃいけないなというふうに思っているのが、市議会の答弁で、「飯田市の不登校はどうですか」というところのときに「高止まりをしている」という表現をしています。

実際に３％前後なんですけれども、実は国のほうは見ていただくとわかるように、国・県はもう３％を超えているので、飯田市は高止まりということではなくて増加を抑制しているというのが、今適切な表現であって、実際に先ほどの協議会であったように、本当に今多くの支援指導主事の先生方が一人ひとりにあたっていただいているという、個に寄り添った本当に一人ひとりの寄り添った指導をしていただいているからこそ今この現状があって、これは効果が出ていないのではなく、こういう効果が出ているのでこういう現状だというほうがとらえ方としては正しいのかなという感覚を持っています。なので、こういった事例集の取り組みはやっぱり継続的にやることも一方で一番大事なことかなあと。

ただ、県が言うように、大きな変革の中でもやっていくこともあるんだろうと思いますし、そういった段階の中ときっちりやっていること、本当にまさにこれはこうやったら全部良くなるというものがないからこそみんな苦労しているのであって、そういうのをこの飯田市の特性を踏まえながらしっかりとやっていきたいなとそんなふうに思っています。

以上ですが、ほかに皆さん意見ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久）　この問題はまた継続審議になると思いますので、ご意見のほうありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

以上で協議事項を閉じます。

日程第８　陳情審議

○教育長（代田昭久）　日程第８　陳情審議。

今月の陳情審議はございません。

日程第９　その他

○教育長（代田昭久）　日程第９　その他。

（１）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久）　教育委員報告事項。

それぞれの委員の皆さんのほうよりお願いいたします。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　時間のこともありますので端的に申し上げます。

第５０回博報賞の資料を用意させていただきました。合わせて１枚物でこのことに関係した「子どもが笑顔をみせるとき」という資料を用意しました。こちらは１８日の校長会で校長先生方にと思って作った資料で、日にちを変えているだけのものです。

さっき教育長のほうからの報告にもありましたが、遠山中学校の博報賞の贈呈式に７日・８日・９日とあったうちの私は８・９日に行かせていただきました。場所が東京駅から皇居に向かって行った真ん中辺のところ、皇居のお堀までそれこそ２００メートルぐらいのところが「日本工業倶楽部」という由緒ある、非常に趣のあるシャンデリアや赤絨毯の階段が中央に配置された建物の中での贈呈式でした。ちょうどその翌日が、天皇陛下のパレードのときだったので、既にその段階からかなり警備が厳しかったですし、「嵐」やなんかの演奏がある前日でしたので、お堀の向こうではそのリハーサルの音ががんがんと流れてくるようなところでした。

遠山中学校の博報賞受賞ということですが、全国７７団体中の１２団体が受賞、そのうち学校関係は９校ということです。

実は、この博報賞というのは非常に権威のある、特に教育関係者にとっては権威のある賞で、飯田市では３８年前に飯田東中がりんご並木で受賞して以来だと思います。それぐらいの賞で、これはなかなかもらえない。副賞も 100 万円というような賞なんですけれど。

博報賞を贈呈するにあたって、「博報堂」の会社のほうは、候補になった学校については必ず現地へ行って調査をして、その上で最後に賞を決定するというようなところまで社員の皆さんが厳密にやっている。「博報教育財団」というところのやっている賞です。

受賞理由については、１枚物のほうにも書きましたし、この２枚を閉じてあるもののほうにも書かれています。

主には霜月祭りを中学生たちが地域の皆さんにご指導をいただきながら４０年間にわたってずっと継承してきたということが理由なんですけれど、実はちょうど４０年前、若干手前味噌のことを言って恥ずかしいんですけれど、上村中学で中学校３年生が文化祭をするにあたり、そのころ既に地域の皆さんに教えてもらって霜月祭りのときに舞を舞っていたんですね。

「そんな良いことをしているなら学校の文化祭のステージで、全校の前で発表しようよ」と言って、その舞を披露した。自分が中学３年生で担任していた子たちのときが１回目なんです、偶然なんですけれど。

それ以来、毎年上村中学の文化祭ではずっとこの霜月祭りの舞を舞う。それについては地域の皆さんからご指導いただいてやるということが、遠山中学校になってからの最近１０年も受け継がれて４０年、ちょうど昭和５４年、私２７歳のときの話なんですけれど、そのときから４０年、今その子たちは５５歳になって、自分のお子さんももう中学を卒業するぐらいになって、今地域に残っている子たちは、中学生を指導する側に立っている。そういうことが評価されての受賞だということで、個人的にもとてもうれしかったですし、今の遠山地区の皆さんも含め喜んでいらっしゃると思います。

その中で、この受賞これから何に生きるのか、１枚物の一番下のことかなあと思いました。下から２行目のところに「押しつけることではけっして生まれない子どもたちの笑顔」というのが、さっきの不登校のところでも話題になったことなんだけれど、結局学校教育の一番基軸にすることじゃないか。飯田市で今やっている連携・一貫教育も、それからコミュニティスクールも、何のためにやっているのかといったとき、私たちが素朴に心にとめていく必要があるのは、結局子どもたちの笑顔が生まれる活動や学校の行事やまなびの場面をつくっていく。もっと言うと、この活動やこの事業をすることで、子どもたちが笑顔になるかなあという素朴な評価の観点なんですけれど、それを基軸に据えるといろんなことがすごくすっ

きりするなあというふうに思うんです。

そうすると、今学校に来られないで、ちょっと笑顔になれないでいる子たちにも、「どうやればこの子が笑顔になれる瞬間がつくれるか」というふうに発想を変えると、教室じゃ無理だけれど、どこかの農園だったらできるとか、動物園だったらちょっとできるとかというようなことがあったら、そういう場を提供してその笑顔の場をつくっていく。

それがさっきの県の言うと、「学校の考え方を変えるべきだ」とか、「多様な学びの場をつくる」とかという言い方にもなる。土台となる素朴な言い方をしたら、「子どもの笑顔が生まれるか」というふうに単純化すると、そんなに難しく考えることではないのかもしれないというようなことを考えながら、この博報賞の授賞式に臨んでいました。

飯田市でも、子どもたちの笑顔が生まれる、そういう場をどれだけ多くつくれるかというふうに、学校やコミュニティスクールでも素朴にやると、かなり肩の力が抜けていろいろなことできるのではないかと思いました。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

ちなみに、この今回の受賞で竜東中学校の花壇にもずっと長い間関わっていただいているので、そんなところで長い間の成果がこうやって形になるとうれしいなあというふうに思います。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久）　それでは、また来月よろしくお願いいたします。

（２）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久）　続きまして、「教育次長報告事項」お願いします。

◎教育次長（今村和男）　いいですか。

報告事項ではないんですが、ちょっと今の話の続きで不登校のところが私もちょっと気になったので感じたことだけ少しちょっと話させていただきたいと思います。

県教委の総合教育会議の結果ということで、「学校そのものを変える」と「学校以外の学びをつくる」というのはドラスティックな言葉だな、刺激的な言葉だとあったんですけれど、私もこれ初めて見たときはそう思ったんですけれど、今日の資料にもあります牧原統括が作っていただいた「取組事例集」見ると、これよく読んでいってみると、もう飯田って学校そのものを、学校そのものを変えてはいかんけれど、支援員の先生たちが学校に入って、普通の学校ではできていない対応とかうんともうできているようになっていると。

そして、職務代理言われました学校以外の学び場は、農園とかあそこを含めていろんなところできていて、それでここを読ませていただくと、本当に学校来ることがいいとかそういう価値観ではなくて、子どもたちに寄り添って何ができるかということをずっとやってこられるというのが、私はこれすごく誇りを持って読ませていただきました。

それで、多分何よりもっとすごいのは、こういう事例を持っているという実績が多分よその自治体はきっとないと思います、こういうことをしてないんです。「大変だ、大変だ」と言うけれど、こういうことの積み重ねがあるということが、私は教育次長という立場で今日、今ころ気づいていちゃあ遅かったかもしれませんけれど、非常に誇らしく感じたなあということを思ったので。

県の方向はこういうことかもしれませんけど、うちは一歩も二歩も先行っているんだなというふうに感じました。感想です。

○教育長（代田昭久）　ありがとうございました。

地域人育成担当参事、お願いします。

◎地域人育成担当参事（青木　純）　私からは特にございません。

○教育長（代田昭久）　ありがとうございました。

（３）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久）　続きまして、「学校教育課報告事項」お願いします。

◎学校教育課長（桑原　隆）　特にございません。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久）　「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規）　こちらのほうの資料の議案５３号の次、「第６５回風越登山マラソン」、この「定例会会議事項」ということで「風越登山マラソン」書いてあります、報告事項ということなんですが。

先ほど、大筋については教育長のほうからありましたけれども、何はともあれ事故やけがなく無事安全に開催ということで、厳しい登山マラソンでしたけれど、それが第一ということです。

それから、人数については、昨年よりもだいぶ減少してしまったということなんですけれども、ここら辺につきましては、後日、開催する実行委員会において対策を考えていくとい

うことで考えております。

日程的には、いろんな日程重なっています。中体連、１１月ごろまでやっておりますので、新人大会、どうしても日程はどこにもかぶっています。さまざまな大会等がありますので、そこのところは今後ターゲットをどこにしていくかということで、中学校を今回はターゲットにしたんですが、その中でも中体連の大会を縫っていただいて幾つかのクラブ等も出ていただきました。そこのところは対策を考えていく必要があるのかなというふうに思っております。

それから、ＩＣタグとかそういった運営全体的な進行やなんかは非常にスムーズにできたので、それについてはそういった部分ではよかったと思います。

特にゲストランナーの五郎谷さん等については、実際に走っていただいて、非常にこの分野で非常に人気のある方だなというのを感じました。そういった部分を含めまして、まあ反省会でどういう反省になるかわかりませんけれど、もう１回出ていただければいいかなというふうに私個人的に思っております。

また、トップを取った方についても、五郎谷さんと同じ会社の「コモディイイダ」所属の選手だったということで、そういった形で選手もいろんな形に広がっていただければと思いますので、ターゲットのほうをまた考えながらやっていきたいと思います。

私のほうは以上でございます。

○教育長（代田昭久）　ありがとうございました。

（５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久）　続いて、「公民館関係報告事項」お願いします。

◎市公民館副館長（秦野高彦）　本日はありません。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございます。

（６）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久）　続きまして、「文化会館関係報告事項」お願いします。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦）　それでは資料１をご覧いただきたいと思います。「人形劇のまちづくり」の状況についてご説明申し上げます。

１の「人形劇公演事業」でございますが、（３）のゴシックの部分ですが、人形劇定期公演の１２月の公演がございまして、１２月１５日になりますが、こちらのほうに川路小学校

の「レッツ！川路キッズ」が出演のほうをいたします。

２番の「人形劇創造支援事業」でございますが、（２）番のところにございますけれども、「ダンボールししまい」ワークショップが行われまして、１０月２０日の獅子舞フェスティバルで上演をされております。

あと、「伊那谷タイムトラベラーズ」ということで、地元の古墳等を題材にした人形劇の製作づくりも小学生７名、中学生２名が参加している状況です。

次のページご覧いただきたいと思います。

「いいだ人形劇フェスタ」の関係でございますが、（２）番をご覧いただきたいと思います。（２）番の丸、下から２番目ですけれども、企画運営委員会が開催されまして、来年の人形劇フェスタですけれども、開催日を８月６日から１０日月曜日の祝日になりますが、２日間という形で、現在、企画をいただける今決定をしておる状況です。

次に４番でございますが、（３）「今後の予定」で、「伊那人形芝居講演」が今週の末、黒田人形浄瑠璃伝承館で開催されまして、地元の人形保存会の皆さん、あと、阿南第一中学校と竜峡中学校の生徒の皆さんがこちらのほうで出演をされます。

次のページをご覧いただきたいと思います。３ページになりますが、「人形劇のまち国際化推進事業」でございます。（２）番で、今後の予定ということで、ＡＶＩＡＭＡのネットワーク都市でもあります南あわじ市との関係で、伝統的人形芝居の交流ということで、飯田の高陵中学校と竜峡中の生徒が、南あわじ市のほうの中学校の生徒、あと、人形座との交流を行う予定になっております。

以上です。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

（７）図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久）　続きまして「図書館関係報告事項」お願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子）　お願いします。次の資料Ｎｏ．２をご覧ください。「よむとす事業の報告及び予定」ということでお願いいたします。

一番上に報告ということで書かせていただきました「特別還元図書市」、図書館で既に複数所蔵がある教育資料とか全集物を市民の皆さんに持っていっていただくリユースのものなんですけれども、こちら１日に６１名の方がご参加いただきました。

近年、図書館に利用をしなくなった本、それからお家の方が以前に買っていた本、「沢山

あるものをもったいなけれども、処分したいけれど、図書館で使っていただけないか」というふうに「寄贈したい」というご希望が沢山あります。

特に、この地域は郷土についての図書の発行が多く、学んだ方が多かったということで、その皆さんがだんだんご高齢になって、お家のほうも「どうしたらいいか」ということで「ぜひ寄贈したい」とおっしゃっていただくんですけれども、図書館のほうでもある物も多いですし、お断りをするということも増えてきている中で、これからそのお家にある郷土に関する本、図書館にあるけれども、処分してしまうのはあまりにもったいないというものを活用していくということができないだろうかということを考えていきたいというふうに考えております。

報告の部分はまたご覧いただければと思いますが、予定ということで、今日配らせていただいた中に水色の案内のチラシがあります。「伊那谷地名講座」についてですが、定例になっておりまして２３回目になります。今は「道の歴史と地名」というシリーズで行っていまして、今回「中馬街道の歴史と地名」という地名講座です。前回も「中馬街道の歴史と地名１」でありまして、清内路・阿智のところを講座として行いましたが、だんだん飯田に近づいてまいりまして、今回は山本・伊賀良・鼎ということで、この地名講座を行っております。

地名にまつわる物語が多い地域ということで、講師には新井利彦さん、地元の方にしていただきますが、ぜひご参加いただければと思います。

裏面には、「飯田下伊那読書会交流会」ということで、「飯伊婦人文庫」の皆さんを中心にして、読書会の皆さんが集まって「これからも元気に読書会を行っていくにはどうしたらいいんだろうか」「読書会は私たちに何をもたらしてくれたんだろうか」という話をする会が設けられます。ぜひご参加いただければと思います。ご案内いたします。

以上です。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

（８）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久）　続きまして「美術博物館関係報告事項」お願いします。

池戸美術博物館副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長（池戸通徳）　お願いします。

赤いチラシがお手元にあるかと思います。また、事前に通知を差し上げてあります関係でございますが、「現代の創造展」は第２０回を迎える記念の創造展になります。今度の日曜日からということで、明日・明後日休館をしまして、実行委員の皆さん、市民の皆さんとと

もにこちらの会場準備を始めるということで、いよいよスタンバイの状態になってまいりました。

裏面見ていただきますと、ジャズ演奏会ですとか記念講演会ということで、お隣の追手町小学校の体育館も借りながらの規模で行うということになっております。

ぜひお楽しみいただきたいということであります。以上です。

○教育長（代田昭久）　はい、ありがとうございました。

（９）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久）　続きまして「歴史研究所関係報告事項」お願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋）　歴史研究所の副所長、今日は公務出張のため、私が代わって説明をさせていただきます。

チラシを配らさせていただきました、「第８９講座」ということで「飯田アカデミア２０１９」が１２月の１４日土曜日及び１５日日曜日に開催をいたします。

テーマは記載のとおりでございますので、もしお時間等ありましたらお願いしたいというふうに伝えてほしいということでありますのでよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久）　ありがとうございました。

ただいま学校教育課から歴史研究所までの報告事項がありましたけれども、以上を通じてご質問、ご意見等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久）　それでは今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋）　それでは、会議資料の３ページ目をご覧いただきたいと思います。今後の日程につきまして記載してございますのでお願いしたいと思います。

明日は今年度最後の学校訪問であります。また、２４日の日曜日は「伊那谷文化芸術祭」の最終日ということで、文化会館から通知が出ていると思いますが、また後ほど出席の確認をさせていただきたいと思います。

１２月の定例会は１２月１２日を予定しておりますのでお願いしたいと思います。

日程につきましては以上です。

○教育長（代田昭久）以上を通じまして、何かその他、何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

日程第１０　閉　会

○教育長（代田昭久）　長時間にわたりありがとうございました。

日程第１０　以上をもちまして、令和元年１１月定例会議を閉じさせていただきます。

本日もありがとうございました。

閉　　会　　午後４時54分